

2022年3月6日 午前礼拝  
「偶像礼拝と悪霊との戦い」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 14:1~7

- 19 ところが、アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。
- 20 しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町にはいって行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。
- 21 彼らはその町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルステラとイコニオムとアンテオケとに引き返して、
- 22 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国にはいるには、多くの苦しみを経なければならない。」と言った。
- 23 また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをもその信じていた主にゆだねた。
- 24 ふたりはピシデヤを通過してパンフリヤに着き、
- 25 ベルガでみことばを語ってから、アタリヤに下り、
- 26 そこから船でアンテオケに帰った。そこは、彼らがいま成し遂げた働きのために、以前神の恵みにゆだねられて送り出された所であった。
- 27 そこに着くと、教会の人々を集め、神が彼らとともにいて行なわれたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったこととを報告した。
- 28 そして、彼らはかなり長い期間を弟子たちとともに過ごした。

## 【説教要約】

使徒 14:19, ところが、アンテオケとイコニウムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。



イコニウムから来たユダヤ人たちは、**■** どうしてパウロを石打ちにして殺すほどパウロを憎んだのでしょうか。ステパノが、**■** ユダヤ人たちがイエス・キリストを十字架につけて殺した罪を指摘したとき、

使徒 7:54, 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ぎしりした。

はらわたが煮えかえる思いで、ステパノを石打ちにしたのです。迫害はいつも悪魔から来ます。

使徒 14:8, ルステラでのことであるが、ある足のきかない人がすわっていた。彼は生まれながらの足なえで、歩いたことがなかった。

使徒 14:9, この人がパウロの話すことに耳を傾けていた。パウロは彼に目を留め、いやされる信仰があるのを見て、

使徒 14:10, 大声で、「自分の足で、まっすぐに立ちなさい。」と言った。すると彼は飛び上がって、歩き出した。

使徒 14:11, パウロのしたことを見た群衆は、声を張り上げ、ルカオニヤ語で、「神々が人間の姿をとって、私たちのところにお下りになったのだ。」と言った。

使徒 14:12, そして、バルナバをゼウスと呼び、パウロがおもに話す人であったので、パウロをヘルメスと呼んだ。

使徒 14:13, すると、町の門の前にあるゼウス神殿の祭司は、雄牛数頭と花飾りを門の前に携えて来て、群衆といっしょに、いけにえをささげようとした。

使徒 14:14, これを聞いた使徒たち、バルナバとパウロは、衣を裂いて、群衆の中に駆け込み、叫びながら、

使徒 14:15, 言った。「皆さん。どうしてこんなことをするのですか。私たちも皆さんと同じ人間です。そして、あなたがたがこのようなむなしいことを捨てて、天と地と海とそこの中にあるすべてのものをお造りになった生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えている者たちです。

使徒 14:18, こう言って、ようやくのことで、群衆が彼らにいけにえをささげるのをやめさせた。

悪魔は、バルナバをゼウス、パウロをヘルメスと呼んで偶像にしたかったのです。パウロのメッセージでパウロを偶像にすることを止めさせられたので、悪魔は怒ってパウロを石打にしたのです。悪魔は偉い人を偶像にします。

菅原道真→天神様 平将門→明神様 源義家→八幡様 徳川家康→権現様  
乃木大将→乃木明神 東郷元帥→東郷神社 豊臣秀吉→豊国神社 明治天皇→明治神宮

偶像を拝むとき、誰を拝んでいるか知っていますか。

I コリント 10:19, 私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像の神にささげた肉に、何か意味があるとか、偶像の神に真実な意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。

I コリント 10:20, いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。偶像を拝むとき悪霊を拝んでいるのです。大分教会に行ったとき中畑先生に、「**1** どうして近所の人教会に来ないのですか**2**」と尋ねたら、加藤清正を偶像として拝んでいると言いました。私の姉はご先祖様を拝んでいますが、ご先祖様は偶像です。偶像を拝むということは悪霊を拝んでいるのです。

悪霊の目的は天地創造の神以外のものを拝ませることです。ですからバルナバとパウロを偶像にしようとしたことは、悪霊が自分たちを拝ませようとしたのです。パウロがそれを止めたことは悪霊にとっては我慢の出来ないことなので、パウロを石打にして殺そうとしたのです。

私が姉に祖先崇拜は悪霊を拝むことだと言えば、私は姉から憎まれるようになります。私が姉に言えないのは姉から憎まれたくないからです。パウロのように殺されても言うという強さがないのです。

使徒 14:20, しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町にはいって行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。

弟子たちはパウロが死んだものと思い、パウロを取り囲んでいると、パウロは生き返り、これは神様がパウロを蘇生されたのです。そしてパウロは自分を石打にした人たちがいる町に入って行った。クリスチャンを迫害して殺していたパウロをイエス様が救われたのは重要な目的があったからです。

使徒 14:28, そして、彼らはかなり長い期間を弟子たちとともに過ごした。  
パウロにはパウロの果たすべき神様の御計画があったからです。

ローマ 8:28, 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、  
神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。  
パウロにはパウロの果たすべき神様の御計画があるのです。神様の御計画を果たし終える  
までは死なないという信仰があったのです。ですから自分を石打にして殺した人たちがい  
る町へ入っていたのです。しかしその町に長く滞在したのではなく、次の日にその町を去っ  
てデルベに向かっています。

使徒 14:21, 彼らはその町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルステラとイコニ  
オムとアンテオケとに引き返して、  
デルベで福音を宣べ伝え、多くの人が救われました。救われただけではなく弟子となってい  
ます。日本ではイエス様を信じて弟子となるまでに10年ぐらいかかります。それはイエス  
様を信じた時、聖霊様が内住してくださいますが、まだ自我も内住しているのです。

イエス様を信じるまでは自我に従って生きてきましたので、イエス様を信じた後でも無意  
識のうちに自我に従ってしまうのです。聖霊様に従い御言葉に従うと成長します。ですから  
デボーションがとても重要なのです。

使徒 9:20, そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。  
使徒 9:21, これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この  
御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、  
祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。」

パウロは復活されたイエス様にお会いしているのです。私たちがイエス様ことを頭で知っ  
てはいましたが、心でイエス様のことを知っていなかったのです。私などはイエス様を信じ  
ても、人にどうやってイエス様のことを宣べ伝えたらよいのかがわからないのです。

しかし高校生を瀬戸教会のニール先生のところへ連れていけば、ニール先生が個人伝道をし  
てくださるのです。ニール先生の個人伝道は簡単です。

- ① マルコ 7:22 から → 人間の罪を教えます。
- ② ヘブル 9:27 から → 罪がある人は死後神様から裁かれます。
- ③ ローマ 5:8 から → イエス様は私たち罪人を愛して十字架で罪人の身代わりとして死んでくださった。
- ④ ローマ 10:9 から → 神様がイエス様を死者の中から蘇らせたと信じるなら救われる。
- ⑤ 黙示録 3:20 から → イエス様が私たちの心の戸を叩いてくださっているのです、心の戸を開いてお入れしましょう。

これだけで救われるのです。パウロは蘇られたイエス様にお会いしているのですから、蘇られたイエス様を信じれば救われるのです。

ローマ 10:9, なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。パウロは自分が救われたときの証をするだけでみんな信じて救われるのです。

使徒 14:22, 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国にはいるには、多くの苦しみを経なければならぬ。」と言った。  
ここは少し説明しなければ誤解を受けます。これは「多くの苦しみを受けなければ天国へ入れてもらえません」という意味ではありません。

ローマ 10:9, なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。神様がイエス様を死者の中から蘇らせたと信じるなら救われるのです。

ヨハネ 6:37, 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。

ヨハネ 10:28, わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。  
ヨハネ 10:29, わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

使徒 14:22, 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国にはいるには、多くの苦しみを経なければならぬ。」と言った。  
ここで多くの苦しみを経なければならぬと言っているのは、「クリスチャンは天国へ行くまで悪霊の妨害を多く受けます」と言っているのです。

私の教え子の中に献身した子がいました。その子のお父さんが高等学校の先生でした。お父さんはその子を医者にしたかったのです。お父さんが私のところへ来て「息子を神学校へ行くことを止めさせてほしい」というのです。私はそのお父さんに「あなたの息子が神学校へ行くことを私が決めたわけではありません。神様がお決めになられたことなので私にはあなたの息子さんを神学校へ行くことを止めさせることはできません」と言ったのです。

するとお父さんは息子を瀬戸教会へ来ることを止めさせました。その子はお父さんには従わなければいけないのでお父さんの言う通り医学部に進み、今は医者になっています。しかしその子が天国へ行けないということではありません。しかし神様の御計画を全うすることが出来ませんでした。

使徒 14:23, また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた。  
長老は牧師のことです。聖書に牧師という言葉は1度しか出てきません。